Test-4-X

www.test-4-x.com/driving

United States • SOS Written Exam

Illinois

Study Guide

KNOWLEDGE POINTS	CHAPTERS	EDITION
24	4	2026-10-18

© 2026 Test4X. All rights reserved.
For personal study use. Not for resale or redistribution.

Questions or corrections: support@test-4-x.com

Disclaimer

This study guide is compiled from official government handbooks and other publicly available sources, for educational purposes only. It is intended to help you study and prepare; it does not constitute legal or professional advice.

Rules and regulations change. Always refer to the official handbook published by your licensing authority for the most current and authoritative information. The publisher assumes no liability for any decision made on the basis of this material.

This publication is independent. It is not affiliated with, endorsed by, or sponsored by any licensing or examining authority. All trademarks are the property of their respective owners.

Edition 2026-10-18 • 24 knowledge points • 4 chapters

Spotted an error, or have a question about this guide?
support@test-4-x.com

Contents

01 Chapter 1: Licensing Requirements 1

02 Chapter 2: Traffic Safety Laws 3

03 Chapter 3: Driving Safely — Basic Vehicle Control 5

04 Chapter 4: Hazardous Situations 7

CHAPTER 1

Chapter 1: Licensing Requirements

1.1 イリノイ州の運転免許の区分

イリノイ州では、車両総重量（GVWR）に基づいて運転免許を分類しています。乗用車や小型トラックの標準的な免許はクラスDです。ご自身の免許で運転が許可されている車両を把握し、オートバイや大型トラックなどの他の車両区分を認識しておくことが重要です。

- ✓ クラスD免許は、車両総重量（GVWR）が16,000ポンド以下のすべての自動車が対象です。
- ✓ クラスL免許は、排気量150cc未満の原動機付自転車が対象です。
- ✓ クラスM免許は、すべてのオートバイまたは原動機付自転車が対象です。
- ✓ クラスA、B、Cはより大型の車両を対象とし、通常は商用運転免許証（CDL）が必要です。

1.2 イリノイ州の道路における車両の最大高

すべてのドライバーは、陸橋、橋、トンネルとの衝突を避けるため、イリノイ州の高速道路で許可されている車両の最大高を認識しておく必要があります。積荷を含むすべての車両の最大高は13フィート6インチです。これは、RVやレンタル-トラックのような背の高い車両を運転する人にとって、極めて重要な安全上の寸法です。

- ✓ イリノイ州のすべての高速道路における全車両の最大高は13フィート6インチです。
- ✓ この高さの測定には、車両と積載されているすべての積荷が含まれ、地面から最も高い地点までを測定します。

1.3 重量超過車両および計量所に関する規則

路面を保護するため、イリノイ州は厳格な重量制限を施行しています。総重量が16,000ポンド以上のすべての車両は、遭遇した公式計量所に停止しなければなりません。乗用車の運転手として、あなたはこの規則を認識し、大型トラックがこれらの義務的な検査のために高速道路を出ることを予測しておくべきです。

- ✓ 重量が16,000ポンド以上のすべての車両は、公式計量所に停止しなければなりません。
- ✓ 車両が重量超過であることが判明した場合、運転手は法律を遵守するために積荷の一部が降ろされるか移動されるまで停止し、その場に留まらなければなりません。

1.4 故障した大型車両用の警告装置

大型トラックやその他の第二種車両が幹線道路上またはその付近で停止した場合、運転手は安全のために特定の警告装置を設置しなければなりません。他の運転手はこれらの装置を認識し、十分なスペースを空けるべきです。これらの車両は、照明弾、赤色電気ランタン、または携帯用赤色非常反射板のいずれかを携帯する必要があります。

- ✓ 故障した第二種車両は、3つの照明弾、3つの赤色電気ランタン、または3つの携帯用赤色非常反射板を装備しなければなりません。
- ✓ 日中の停止の場合、これらの車両は2枚の赤色の布旗（少なくとも12インチ四方）または2つの携帯用赤色非常反射板も備えている必要があります。
- ✓ 爆発物または可燃物を輸送する車両は、照明弾のような火炎を発する信号の使用を禁じられており、電気ランタンまたは反射板を使用しなければなりません。

1.5 第2区分車両の定義

イリノイ州では、車両は第1区分または第2区分に分類されます。第1区分車両は標準的な乗用車です。第2区分車両は、10人を超える乗客を運ぶように設計された車両、居住区として使用される車両、または貨物を牽引または運搬するように設計された車両を含む、より広範なカテゴリーです。これらの車両には異なる規則や安全要件があるため、この違いを理解することが重要です。

- ✓ 第2区分車両は、10人を超える人を運ぶように設計されたものです。
- ✓ 居住区として設計または使用される車両（RVなど）は、第2区分車両です。
- ✓ 貨物や積荷を牽引または運搬するように設計された車両は、すべて第2区分車両です。
- ✓ 貨物を運ぶために改造された標準的な乗用車（第1区分車両）は、第2区分車両になります。

1.6 商用運転免許（CDL）規則の免除対象車両

大型の商用トラックには特別なCDLが必要ですが、イリノイ州法は特定の車両に対する免除を定めています。これは、レクリエーション用車両（RV）や農耕用トラックなどの大型車両が、CDLを持たないドライバーによって運転されている場面に遭遇する可能性があることを意味します。これらの免除には特定の条件があります。

- ✓ 主に個人使用目的でレクリエーション用車両（RV）を運転する場合、商用運転免許（CDL）は必要ありません。
- ✓ 農耕用機械のオペレーターは、農場から150航空マイル以内で農産物や物資を輸送する場合、CDL要件が免除されます。
- ✓ 消防用機材および軍用車両（軍事目的）のオペレーターも、CDLの取得義務が免除されます。

CHAPTER 2

Chapter 2: Traffic Safety Laws

2.1 イリノイ州の法定および状況に応じた制限速度

イリノイ州法は最高制限速度を定めていますが、ドライバーは常に現在の状況に合わせて速度を調整する責任があります。標識のある州間高速道路での最高制限速度は70マイル/時、その他のほとんどの高速道路では55マイル/時です。標識の制限に関わらず、ドライバーは交差点への接近時、カーブを曲がる時、丘の頂上への接近時、または悪天候や交通渋滞などの危険な状況では減速しなければなりません。

- ✓ イリノイ州の州間高速道路での最高制限速度は、標識がある場所では70マイル/時です。
- ✓ その他のほとんどの高速道路での最高制限速度は、特に標識がない限り55マイル/時です。
- ✓ 交差点に接近または通過する際、またはカーブを曲がる際は、常に減速しなければなりません。

2.2 低速走行車両の識別と付近での運転

イリノイ州では、農業用機械、建設機械、動物が引く荷車などの特定の車両は、後部に赤とオレンジの三角形の標識を表示しなければなりません。この標識を付けた車両に接近する際、運転手は大幅に減速する準備をしなければなりません。これらの車両は法律により、右側の車線を走行することが義務付けられています。ライトが必要な場合は、少なくとも500フィートの距離から見える高さに取り付けられた、点滅する黄色の信号も装備しなければなりません。

- ✓ 低速走行車両は、後部にある赤とオレンジの三角形の標識によって識別されます。
- ✓ 低速走行車両の標識を表示している車両は、右側の車線を走行しなければなりません。
- ✓ ライトが必要な場合、低速走行車両は少なくとも500フィートの距離から見える点滅する黄色の信号を備えていなければなりません。

2.3 特定車両の踏切における一時停止義務

すべての運転者は踏切で注意を払う必要がありますが、イリノイ州法では特定の車両は常に停止することが義務付けられています。これには、スクールバス、有償で乗客を運送する車両、および危険物標識を掲げた車両が含まれます。義務付けられた停止は、最も近い線路から50フィート以内で、かつ15フィート以上離れた場所で行わなければなりません。停止後、運転者は列車が来ていないかを目で見て耳で聞き、安全な場合にのみ進行し、線路を横断中はギアを変更してはなりません。

- ✓ スクールバス、旅客運送車両、危険物積載車両は、すべての踏切で停止しなければなりません。
- ✓ 義務付けられた停止は、最も近い線路から15フィートから50フィートの間で行わなければなりません。
- ✓ これらの車両の運転者は、踏切を横断中にギアをチェンジしてはなりません。

2.4 故障車両のための警告装置の設置

第2種車両（例：大型トラック）または他の車両を牽引している車両が故障した場合、運転手は発煙筒や反射板などの警告装置を設置しなければなりません。設置規則は道路の種類によって異なります。中央分離帯のある高速道路では、装置を車両の交通側から10フィート、そして後方に100フィートと200フィートの位置に設置する必要があります。その他の道路では、車両の側方に10フィート、後方に100フィート、前方に100フィートの位置に設置します。爆発物や引火性の貨物を積載している車両には、発煙筒のような火炎を発生させる装置の使用は禁止されています。

- ✓ 中央分離帯のある高速道路では、故障車両の警告装置は10フィート（交通側）、100フィート（後方）、200フィート（後方）に設置します。
- ✓ 対面通行の道路では、警告装置は10フィート（交通側）、後方に100フィート、前方に100フィートに設置します。
- ✓ 爆発物や引火性の液体を積載している故障車両には、発煙筒や火炎を発生させる信号を使用してはなりません。

CHAPTER 3

Chapter 3: Driving Safely — Basic Vehicle Control

3.1 アルコール、大麻、薬物による能力低下

イリノイ州には、アルコール、大麻（医療用を含む）、その他の規制薬物の影響下での運転を禁じる厳しい法律があります。これらの物質は視力や反応時間に深刻な影響を与えるため、体内に能力を低下させる物質が微量でも含まれている状態で車両を運転することは違法です。

- ✓ 血中に規制薬物、物質、または酩酊性化合物が微量でも含まれている状態でイリノイ州の高速道路で自動車を運転することは違法です。
- ✓ 車両で輸送される医療用大麻は、不正開封防止容器に保管し、車両の走行中は運転者がアクセスできない場所に置かなければなりません。

3.2 イリノイ州の脇見運転および携帯電話に関する法律

脇見運転を防ぐため、イリノイ州法は自動車の運転中に通信目的で携帯電子機器を使用することを禁止しています。これには、携帯電話を手に持ってのテキストメッセージ送信や通話が含まれます。ヘッドセットの使用も禁止されています。

- ✓ 自動車の運転中に携帯電話を手に持って使用すること、テキストメッセージを送信すること、またはその他の電子通信機器を使用することは違法です。
- ✓ ハンズフリー装置またはBluetooth技術の使用は、19歳以上のドライバーにのみ許可されています。
- ✓ 運転中のヘッドセットの着用は禁止されています。ただし、その装置が補聴器である場合を除きます。

3.3 故障車両のための警告装置の設置

車両が路上で故障した場合、イリノイ州法では、他のドライバーに警告するために、発煙筒、ランタン、反射板などの特定の警告装置を設置することが義務付けられています。設置規則は、道路の種類、車両の積荷、および車両が丘やカーブなどの障害物の近くにいるかどうかによって異なります。

- ✓ 爆発物または可燃物を積載した故障車両の場合、3つの赤色電気ランタンまたは反射板を使用し、1つを交通のある側に10フィート、1つを前方100フィート、1つを後方100フィートに設置しなければなりません。
- ✓ 車両がカーブや丘から500フィート以内で故障した場合、対向車に警告するために、警告信号を車両から100フィートから500フィートの間に設置しなければなりません。
- ✓ 中央分離帯のある高速道路では、日中に不燃性の赤旗または反射板を故障車両の後方100フィートと200フィートの地点に設置しなければなりません。

3.4 イリノイ州における他車両の牽引に関する規則

イリノイ州での車両の牽引は、特定の安全規則によって規定されています。これらの法律は、連結装置の強度と長さ、安全チェーンの義務的な使用、および被牽引車両に乗車できる者に関する制限を対象としています。

- ✓ 2台の車両間の連結棒（ドローバー）またはその他の連結装置の長さは、15フィートを超えてはなりません。
- ✓ すべての被牽引車両は、連結棒が破損した場合に車両が分離するのを防ぐのに十分な強度を持つ2本の安全チェーンまたはケーブルで牽引車両に接続されなければなりません。
- ✓ パレードや農業活動といった非常に限られた例外を除き、乗客が公道で牽引されているトレーラーやその他の車両に乗ることは許可されていません。

3.5 車両からはみ出す積荷の表示

車両の後方から著しくはみ出す積荷を運搬する場合、他のドライバーに見えるように適切に表示しなければなりません。必要な表示は、昼間か夜間かによって変わります。

- ✓ 昼間は、車両の後方へ4フィート以上はみ出す積荷には、少なくとも12インチ四方の赤い旗または布で表示をしなければなりません。
- ✓ 夜間は、4フィート以上はみ出す積荷には、少なくとも500フィート離れた場所から見える赤色のライトで表示をしなければなりません。

CHAPTER 4

Chapter 4: Hazardous Situations

4.1 アルコールおよび薬物の影響下での運転

イリノイ州法は、アルコール、大麻（医療用を含む）、またはその他の規制物質の影響下で運転することを禁止しています。アルコールは死亡衝突事故の主な原因であり、少量であっても視力や反応時間を損なう可能性があります。体内に規制物質の痕跡が少しでもある状態で運転することは違法です。

- ✓ 血中に規制薬物、物質、または酩酊性化合物の痕跡が少しでもある状態でイリノイ州の高速道路で自動車を運転することは違法です。
- ✓ 医療用大麻は、不正開封防止容器に入れて輸送し、車両の走行中はアクセスできない場所に保管しなければなりません。

4.2 イリノイ州の脇見運転および携帯電話使用に関する法律

イリノイ州法は、運転中の携帯電子機器の使用を厳しく禁止しています。これには、テキストメッセージの送信、携帯電話を手で持っての通話、ビデオの視聴、ソーシャルメディアの使用などが含まれます。ハンズフリーまたはBluetoothの使用は、19歳以上のドライバーにのみ許可されています。携帯電話を手で持って使用することは、非常に特定の状況でのみ許可されます。

- ✓ イリノイ州では、自動車の運転中に携帯電話を手で持って使用したり、テキストメッセージを送信したり、その他の電子通信を行ったりすることは違法です。
- ✓ ハンズフリーまたはBluetooth技術は、19歳以上のドライバーにのみ合法的に許可されています。
- ✓ ハンズフリーでない携帯電話は、緊急事態を報告する場合、路肩に駐車している場合、または車両をニュートラルかパーキングに入れて交通渋滞で停止している場合にのみ使用できます。

4.3 運転中のタイヤのパンク（バースト）への対応

タイヤの故障、すなわちパンク（バースト）は、突然車両のコントロールを失う原因となり得ます。正しい対応は、ハンドルをしっかりと握り続け、徐々に減速することです。急ブレーキをかけることは自然な反応ですが、状況を悪化させる可能性のある誤った行動です。

- ✓ タイヤが突然パンクした場合、コントロールを維持するために両手でしっかりとハンドルを握らなければなりません。
- ✓ タイヤがパンクした後は、急ブレーキをかけないでください。車両が減速するまでブレーキから足を離し、その後ゆっくりとブレーキをかけて路肩に停車してください。

4.4 後輪のスリップを修正する方法

後輪のスリップは、後輪タイヤがトラクションを失い、車両の後部が横滑りする現象です。これは滑りやすい路面での過度なブレーキングやアクセル操作が原因で起こることが多いです。立て直すには、スリップした方向にハンドルを切り、ブレーキを避ける必要があります。

- ✓ 車両の後輪がスリップし始めたら、ブレーキとアクセルから足を離してください。
- ✓ スリップを修正するには、車両を進ませたい方向に素早くハンドルを切ってください（スリップした方向にハンドルを切る）。

4.5 車両からのはみ出し積載物の表示

イリノイ州では、車両の後方から4フィート以上はみ出す積載物は、他のドライバーから見えるように適切に表示しなければなりません。必要な表示の種類は時間帯によって異なります。日中は赤い旗が使用されます。夜間は、赤い灯火が必要です。

- ✓ 日中、車両の後方から4フィート以上はみ出す積載物には、少なくとも12インチ四方の赤い旗または布で表示しなければなりません。
- ✓ 夜間または視界が悪い場合、4フィート以上はみ出す積載物には、少なくとも500フィートの距離から見える赤い灯火で表示しなければなりません。

4.6 居眠り運転の危険性と予防

居眠り運転は、飲酒運転と同様に、反応時間、注意力、判断力を低下させるため、非常に危険です。疲労したドライバーは、衝突を避けるために時間内に反応できない可能性があります。運転前には十分な休息をとり、長距離の移動では予防策を講じることが極めて重要です。

- ✓ 眠りに落ちなくても、疲労は安全に運転する能力を損なう可能性があります。
- ✓ 長距離の移動で居眠り運転を避けるためには、頻繁に停車して休憩を取るべきです。

4.7 安全な後退（バック）の手順

後退は視界が限られているため、本質的に危険です。後退する前に、運転手は進路に障害物がないか実際に確認する必要があります。後退する際は、ゆっくりと行い、より良い視界を得るために運転席側に曲がることが推奨されます。

- ✓ 後退する前に、車から降りて車両の周りを完全に歩き、進路が安全であることを確認してください。
- ✓ 常にできるだけゆっくりと後退し、視界を良くするために運転席側に曲がってください。

4.8 車両火災発生時の対処法

車両から火災が発生した場合、最優先事項は安全な場所に移動することです。道路から離れ、建物、木、他の車両から離れた開けた場所に車を停めてください。ご自身で消火を試みる場合は、安全な距離を保ち、炎の根元を狙ってください。

- ✓ 車両火災の場合は、直ちに燃え移る可能性のあるものから離れた開けた場所に車を停めてください。
- ✓ 消火器を使用する際は、風上に立ち、炎ではなく火元や火の根元を狙ってください。

4.9 路上で立ち往生した場合の安全手順

イリノイ州の道路で車両が故障した場合は、特定の安全手順に従う必要があります。最初のステップは、可能であれば右側の路肩に車を寄せ、ハザードランプを点灯させることです。その後、助けを呼び、反射三角表示板を使用して他のドライバーに警告する必要があります。

- ✓ 車両が立ち往生した場合は、右側の路肩に車を寄せ、ハザードランプを点灯させ、援助を要請してください（911、またはイリノイ有料道路では*999）。
- ✓ 安全のため、特に交通量の多い道路では、助けが到着するのを待つ間は、シートベルトを締めて車内に留まるべきです。